

第19回 記者懇談会実施概要

12. 5. 24

- 1 日 時 平成12年5月24日(水) 15時～
- 2 場 所 100周年記念会館 第2会議室
- 3 内 容
 - (1) 研究発表(15:00～15:30)
 - ・山野 博史 法学部教授
発表テーマ「発掘 司馬遼太郎」資料1
 - ・幸塚 広光 工学部助教授
発表テーマ「ゾル-ゲル法により作製される機能性セラミックコーティング膜の厚膜化」資料2
 - (2) 質疑応答(15:30～15:50)
 - (3) 学内状況説明・情報交換(15:50～16:30)
 - ア 2001年度学部入学試験の概要 資料3
 - イ 平成12年度私立大学学術フロンティア推進拠点の選定
 - ウ 平成12年度私立大学ハイテク・リサーチ・センターの選定
 - エ ウェブスター大学との Dual-Degreeプログラム構想について
 - オ 尚文館竣工、法学研究所等施設(仮称)起工

4 大学側出席者

石川 啓学長、川道麟太郎広報委員長、山野博史法学部教授、幸塚広光工学部助教授、中尾正司企画室次長、藤本清高広報課長

5 参考資料

- (1) 『関西大学心理相談室紀要』創刊号(関西大学心理相談室発行)
- (2) 『質問紙による大学生の精神保健に関する調査報告書』(関西大学心理相談室発行)
- (3) 『関西大学大学院社会学研究科 文部省学術フロンティア・シンポジウム「学校教育における包括的ストレス・マネジメントに関する臨床心理学的実践研究」開催記念誌』
- (4) 「おおさか文化セミナー 20周年記念講座」案内
- (5) 『関西大学通信』第281号
- (6) 『To harmonize deeds with theory』
- (7) 『KU SCRAPBOOK』VOL. 6
- (8) 木岡伸夫・桑原尚史編著『くいのち>響き合う世界へ～生命論の再構築に向けて～』
(関西大学出版部発行)

以 上

発掘 司馬遼太郎

法学部教授 山野博史

小学校高学年のころ、デビューしたての司馬遼太郎の愛読者になって以来、司馬資料探索、蒐集40年。

『司馬遼太郎の^{あしおと}登音』(中公文庫)、『司馬遼太郎について』(NHK出版)、『司馬遼太郎全集』(第三期 文藝春秋)第68巻などで「年譜」を執筆し、また本年3月に完結した上記全集の月報に「発掘 司馬遼太郎」(全17回)を連載したが、これらと併行しながら、司馬遼太郎の文業の全体像を見渡すための基礎資料を提供できればと考えて、「司馬遼太郎書誌」の完成にむけて微力を傾注している。

一連の作業を遂行する過程で感じたことどもをいくつか披露して、参考に供したい。

晩年の十数年、警咳に接した後学のひとりとして、話の眼目が、司馬遼太郎の人と仕事を可能なかぎり、等身大で理解し、ありのままの姿を伝えようとするところにあるのは、申すまでもない。



やまの ひろし
山野 博史
教授

1971年に京都大学法学部を卒業し、同大学大学院法学研究科の修士課程、博士課程で学んだのち、76年4月、本学専任講師に就任。助教授を経て、現職。現在、図書館長。

専攻は、日本政治史、書誌学。思想史、文藝史にも関心が深い。人物研究としては、三宅雪嶺、柳田國男、司馬遼太郎の人と作品について、本格的に勉強中。個別研究としては、第一次世界大戦と日本および日本人とのかかわりについて、根本的に考察中。

『本は異なるもの味なもの』(潮出版社)、『知的生活の流儀』(共著 PHP研究所)、『三酔人書国悠遊』(共著 潮出版社)、『司馬遼太郎の^{あしおと}登音』(共著 中公文庫)、『泣菫随筆』(共編 富山房百科文庫)、『山片蟠桃賞の軌跡』(共同監修 清文堂出版)、W.W.ロストウ『政治と成長の諸段階』上下(共訳 ダイヤモンド社)、R.A.モース『近代化への挑戦—柳田國男の遺産』(共訳 日本放送出版協会)などの仕事がある。

発表テーマ：

ゾル-ゲル法により作製される機能性セラミックコーティング膜の厚膜化

概 要：

セラミック薄膜素子を製造する方法として金属アルコキシド溶液を原料とするゾル-ゲル法というものがある。CVD 法やスパッタ法などの気体を前駆体とする方法と比べ、ゾル-ゲル法は安価な設備による大量生産を可能とするものであるため、世界各国の科学者・技術者の関心を集め、この20年間に関連論文・特許の件数が急増した。しかしながら、1回のコーティング操作で亀裂や剥離などをおこさずに達成できる膜厚が0.1ミクロン以下に制限されることが問題として取り残され、企業をしてこの方法によるセラミック薄膜素子の製造を工業化することを躊躇させてきた。我々はこの点を問題視し、最近、ポリビニルピロリドンなる有機高分子を出発原料に混入させることによって、膜製造過程で膜中に発生する応力を低減し、亀裂発生を抑え、1回のコーティング操作で亀裂のない厚さ2ミクロンをこえる各種セラミック薄膜素子を製造することに成功したので報告する。

プロフィール：

1982年京都大学工学部工業化学科を卒業後、同大学大学院に進学し、同大学化学研究所助手、助教授を経て、1998年に関西大学工学部材料工学科助教授に着任した。この間1989年に博士号を授与され、1990年から1年間はカリフォルニア大学ロサンゼルス校で博士研究員をつとめ、1992年には日本セラミックス協会進歩賞を受賞した。専門はセラミックス工学であるが、とくに過去14年間はゾル-ゲル法とよばれる化学的な手法に基づく機能性セラミックスの開発に取り組み、100篇近い学術論文を発表してきた。最近、同法による薄膜形成の基礎科学、コーティング膜の厚膜化技術の開発、光触媒素子の開発、人工骨材料の開発に関する研究に没頭している。